たけた 市議会だより

2012. 11. 1
No. 29

今年は岡藩の初代藩主中川秀成公が亡くなられて400年の節目の年。
「サンチャゴの鐘」を岡藩城下町400年祭のシンボルとして、災害復興に向けた様々なイベントが実施されました。

400
岡藩城下町400年祭

9月定例会

災害復旧費約56億円の補正予算を可決

平成24年第3回定例会は、9月6日から27日までの22日間を会期として開かれました。この定例会では、初日に21案件、最終日に15案件の議案等が提出され、条例の一部改正、補正予算、決算認定のほか、請願・陳情、意見書案など40案件について審議を行い、それぞれ別記のとおり決定しました。

市営急傾斜地崩壊対策事業

1億1560万8千円増（県40%、市45%、受益者15%）

給水車の購入（新規）

1186万5千円　（電源立地地域対策交付金事業）

平成24年度竹田市一般会計補正算（第4号・第5号）については、歳入歳出ともに64億1628万2千円の増額で252億7376万5千円となった。

補正予算の歳出の主な内容は、**総務費**では、災害などによる長期の断水時に必要とされる給水車の購入費1186万5千円、空家活用など定住推進のための農村回帰支援事業費530万円、被災したケーブルネットワークの復旧工事費4600万1千円、平成23年度決算剰余金の基金への積立金として4億5000万円等を計上。**民生費**では、新規事業である市町村介護予防強化推進事業費に1402万6千円など。**衛生費**では、予防接種委託料3000万円等を増額。**農林水産業費**では、粗飼料流通拡大事業費補助金282万円、団体営土地改良事業費473万円等を増額。**商工費**では、地域経済活性化のための地域商品券補助金1800万円、「竹ひかり」プロジェクト推進事業費補助金146万6千円等を増額。**土木費**では、市道を覆う竹木伐採や側溝清掃など市道の維持費として3242万4千円、市民の事業要望が多い急傾斜地崩壊対策事業費1億1560万8千円等を増額し、国の交付金配分の減により道路新設改良費を2億5521万2千円減額計上。**消防費**では、施設費を172万5千円増額。**教育費**では、岡本小学校の閉校記念式典等補助金143万3千円、白丹公民館屋根の防水工事費325万8千円を計上、幼稚園用地購入費の減額に伴う幼稚園建設費4874万円を減額。**災害復旧費**では、農地災害復旧費22億4400万円、農業用施設災害復旧費16億5400万円、林業施設災害復旧費2億1400万円、道路橋りょう災害復旧費11億2312万3千円、河川災害復旧費3億1511万9千円、都市公園災害復旧費1107万6千円等の災害復旧費55億6195万4千円を増額。**公債費**では、市の借入金の一部を繰上償還により元金償還金3億2832万9千円を増額し、償還金利子2000万円を減額計上した。

▶予算特別委員会（足達寛康委員長）

一方、歳入では、普通交付税6524万5千円、公共土木災害復旧費負担金などの増額により国庫支出金9億5600万5千円、農地災害復旧事業費補助金などの増額により県支出金22億6113万8千円、財政調整基金繰入金等の繰入金21億3331万4千円、繰越金4億5000万円、市債2億7263万2千円をそれぞれ増額計上した。

9月定例会初日（9/6）に行った人権・同和研修
講師：後藤群逸　先生

平成24年　第３回定例会(平成24年９月６日～27日)

議案・請願・陳情・意見書案・認定等の議決結果

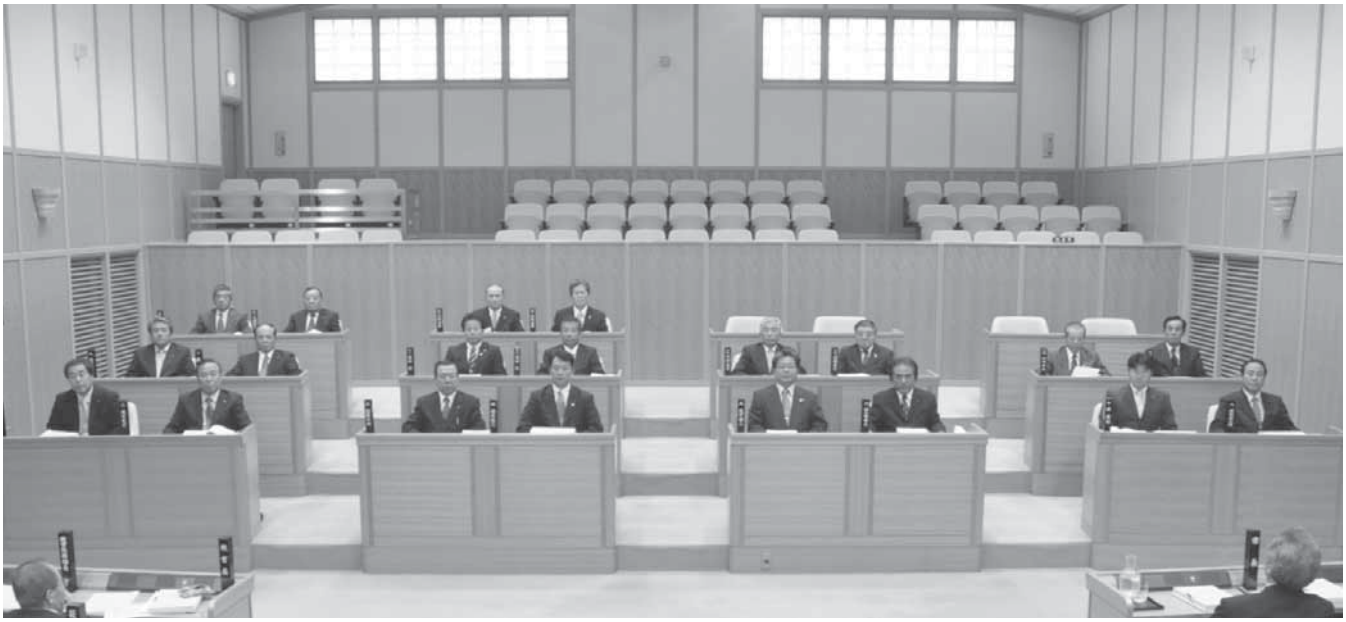
諮問第１号	人権擁護委員候補者の推薦について	原案の者適任
議案第83号	平成24年度竹田市一般会計補正予算(第４号)について	可　決
議案第84号	平成24年度竹田市立こども診療所特別会計補正予算(第３号)について	可　決
議案第85号	平成24年度竹田市長湯温泉療養文化館特別会計補正予算(第１号)について	可　決
議案第86号	平成24年度竹田市国民健康保険特別会計補正予算(第１号)について	可　決
議案第87号	平成24年度竹田市後期高齢者医療特別会計補正予算(第１号)について	可　決
議案第88号	平成24年度竹田市介護保険特別会計補正予算(第１号)について	可　決
議案第89号	平成24年度竹田市簡易水道事業特別会計補正予算(第３号)について	可　決
議案第90号	平成24年度竹田市農業集落排水事業特別会計補正予算(第３号)について	可　決
議案第91号	平成24年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計補正予算(第４号)について	可　決
議案第92号	平成24年度竹田市国民宿舎直入荘事業特別会計補正予算(第１号)について	可　決
議案第93号	平成24年度竹田市水道事業会計補正予算(第３号)について	可　決
議案第94号	竹田市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正について	可　決
議案第95号	竹田市火災予防条例の一部改正について	可　決
議案第96号	竹田市身体障害児及びひとり親家庭の医療費の助成に関する条例の一部改正について	可　決
議案第97号	竹田市分担金徴収条例の一部改正について	可　決
議案第98号	竹田市特定公共賃貸住宅管理条例の一部改正について	可　決
議案第99号	竹田市名誉市民の選定について	同　意
議案第100号	動産の買入れについて	可　決
議案第101号	字の区域の変更について	可　決
認定第１号	平成23年度竹田市水道事業会計決算の認定について	認　定
請願第２号	白丹小学校の「複式学級における授業改善」及び「特色ある学校づくり」のための市費負担教員配置についての請願	採　択
陳情第２号	四国電力伊方原子力発電所再稼働に反対する意見書を求める陳情	継続審査
意見書案第５号	地球温暖化対策に関する「地方財源を確保・充実する仕組み」の構築を求める意見書	可　決
意見書案第６号	中九州・東九州地域の高速道路網の整備促進を求める意見書	可　決
議案第102号	平成24年度竹田市一般会計補正予算(第５号)について	可　決
議案第103号	竹田市分担金徴収条例の一部改正について	可　決
認定第２号	平成23年度竹田市一般会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第３号	平成23年度竹田市同和対策事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第４号	平成23年度竹田市立こども診療所特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第５号	平成23年度竹田市畜産開発事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第６号	平成23年度竹田市長湯温泉療養文化館特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第７号	平成23年度竹田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第８号	平成23年度竹田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第９号	平成23年度竹田市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第10号	平成23年度竹田市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第11号	平成23年度竹田市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第12号	平成23年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第13号	平成23年度竹田市国民宿舎久住高原荘事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第14号	平成23年度竹田市国民宿舎直入荘事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査

10議員が登壇

市政を問う

一般質問

9月11日(火)4名
12日(水)4名
13日(木)2名



竹田市議会では、一般質問は答弁を含め1人60分となっています。内容は、各議員本人が700字程度にまとめたもので、質問順に掲載しています。

豪雨災害復旧について

吉竹　悟

問　農業関係、公共土木施設、市営・一般住宅、公共施設等の被害状況は。

農林整備課長　補助対象件数は2099件、被害額は9月1日現在、約48億9660万4千円となっている。

建設課長　国庫負担法の対象となる市道、橋りょう、準用河川の被害合計は328件。負担法対象外は総計821件で17億3263万円となっている。

市営住宅の被害は、市営下矢倉団地4棟のうちD棟1階4戸、集会所及び浄化槽施設が被災。被害額1946万1千円となっている。

総務課長　一般住宅の全壊が12戸、大規模半壊は16戸、半壊が72戸、一部損壊が198戸。家屋の大規模半壊の内、床上浸水202戸、床下浸水79戸となっている。

問　魚住ダムの放流が下流域に影響を及ぼすことはなかったか。

建設課長　魚住ダムの放流による下流域への影響については、検証作業の中で分析する。ダム湖の浚渫（しゅんせつ）は、平成7年以後行っていないと九電より確認。九電では5年間隔で深浅測量を行っているが、堆砂の傾向はないとのこと。

問　災害復旧は従前と同様に行うのか。今後起こりうる災害に対し、予防・防災を考えた工法で行うのか。

農林整備課長　農災は原型復旧が原則。原型復旧が困難な場合、復旧工法の経済性から異なる工法の申請は可能。災害防除や予防の面での申請は困難と考える。

建設課長　従前の災害では、激甚災害対策特別緊急事業や災害復旧助成事業で河川の拡幅や護岸工事をしてきた。県においても玉来川・滝水川の復旧は、被災水位を基に堤防の嵩上げや止水壁の設置を検討し、減災を図る計画を立てている。

この他CATV被災、文化会館等の被災状況、南河内の安全対策、40万未満、40万以上の災害復旧費の自己負担分助成制度制定について質問した。

水害により半壊した魚住橋

豪雨災害の復旧と検証について問う

阿部雅彦

問　玉来ダムの早期建設と河川・堤防の改修にどのように強力に取り組むのか。

市長　洪水調整能力等を含めた玉来ダムの規模を再考し、建設することを知事や関係機関に要望したい。また、二度と同じ災害が起きぬように災害検証会議を通して、しっかり取り組んでいきたい。

問　避難勧告や指示及び避難場所について、今後の課題は何か。

総務課長　急激な気象変化による災害が発生すると、交通網の寸断や通信障害等で消防・警察等による救助活動が円滑に行われないことが想定されるため、個人の判断による緊急対応や地域住民等の連携が重要になる。非常時に安全な場所に避難できるように年内には、消防署と連携して防災訓練を実施していきたい。

問　家屋を被災した方々への支援と玉来分館や竹田市文化会館等の文教施設の復旧は。

建設課長　被災者の住宅支援については、国の小規模住宅地区改良工事を活用し、基本的には市が市営の改良住宅を整備して、被災者の希望に応じて入居して頂けるように事業の方向を早急に考えていきたい。

生涯学習課長　国の激甚災害の指定により、文教施設の原型復旧には3分の2の補助が出るが、周辺堤防の嵩上げ対策等が必要である。

問　農業をされている方々への市独自の支援策は検討されているが、商工業者への市独自の支援策は。

商工観光課長　有利な融資制度や地域商品券事業の取組を通して支援をしていきたい。

問　子どもたちをはじめ被災者への心のケアの取組は。

健康増進課長　悩みの解消や孤立を防ぐ等関係機関と連携して取組を続けていきたい。

流れ込んだ土が堆積した玉来分館前

7・12豪雨災害を振り返って

日小田秀之

問　竹田市地域防災計画によると、災害復旧・復興の基本方針では、「災害を糧として、より災害に強い市土を後世に残していくことを目的に復興がなされるべき」とあるが、市としての基本姿勢は。また、復興計画の策定にあたり、市民（被災者代表等）を含めた委員会設置の考えはないか。

市長　復旧・復興計画の根幹を成すものとして「ビルド・バック・ベター」、単なる復旧ではなく、夢のある復興をめざしていくことをテーマに、「災害に強いまちづくり」、「災害に強い人づくり」を積極的に進めなければならないと肝に命じている。

総務課長　今回被災した地域は、過去にも大きな被害を被っており、これまでのようなハード整備だけでは災害を防ぐことは不可能と捉えている。まずはデータに基づくしっかりとした検証が必要と考えている。その上で、例えば河川沿いにパラペット（止水壁）を設けることや災害に強い森づくりの取組など災害の発生を抑制する施策も必要である。人づくりの面では、地域の実情に詳しい消防団や防災士を取り込んだ自治会単位の自主防災組織の整備が急務であると捉えている。

問　過去の惨禍を教訓とした復興計画を、今回是非とも策定すべきと思うがどうか。

市長　本市の災害復興については、部分的にではなく総括的に計画を練る必要がある。復興に向けてのまちづくりを市民の皆様ともしっかり議論していきたいと思っているので、提案については、委員会設置等も視野に入れて検討したい。

この他、国営大野川上流農業水利事業（大蘇ダム）と道州制（九州府構想）について質問した。

非常口から木材が流れ込んだ竹田市文化会館大ホール

荻町簡易水道・環境について

徳永信二

問 災害時の断水に対処できる新たな水源の確保が必要では。

水道課長 災害に強い安定した水源の確保が必要である。荻町簡易水道の再整備の方針を明らかにし、県と補助制度の協議を重ね、最良の方向性を探る。

問 復興に当たり、滝水川の上流域に治水ダム建設の必要性を含め、治水対策を、国や県に要望しては。

建設課長 地域を守る点では、ダム建設により直接的に洪水の流量を調整できることは効果がある。しかし、玉来川と合流するまでには、4か所からの流れ込みがあり、ダムの建設場所と調節流量が問題となる。県と協議し可能性を探る。

問 事業所施設などの、家畜の排泄物から発生する臭い(悪臭)に対する住民からの苦情対応と、事業所への指導内容は。

環境衛生課長 近隣住民の苦情等があれば、現場確認を行い施設長に原因説明を求める。また、事業所責任者に改善や防止について必要な措置を講じるよう指導している。施設等の改善は、公害防止監視委員と行政及び業者で、施設内の視察や定期的な会議を開催し、施設改善に向けた情報交換を行っている。業者へは地元住民と共存共栄を図るため草刈作業等への参加や、日常の挨拶等に努めるよう指導している。豊後大野家畜保健衛生所をはじめ関係機関と連携して、施設設備の改善を指導していきたい。

その他、税の負担軽減について質問した。

甚大な被害を受けた荻町南河内の状況

農業問題・教育問題について

森哲秀

問 梅雨前線集中豪雨で、被災した農地・農業用施設の復旧計画は。

農林整備課長 北部九州全体を襲った激甚災害のため、査定が遅れることが懸念されるが、今年度は、農道・水路を優先し、施設に付随する農地を全て発注したい。7割程度の発注を想定。25年度からは、農地の残りを上半期までに発注し、3年目は繰越分だけの対応としたい。

問 被災農地の復旧までの管理は。

農林整備課長 農地は、植付けまで工事が間に合わないため、被災箇所の管理は農家で行ってもらうこととなる。土砂の撤去や内畦畔等を作り作付できる範囲で再被災しないような自己管理をお願いしたい。

問 竹田市の農業用「ため池」の数は。老朽化が進んでいると思われる「ため池」の現状を伺う。

農林整備課長 ため池台帳に記載されている地域別数は、荻地域4か所・久住地域13か所・直入地域18か所・竹田地域14か所の総計49か所。そのうち緊急整備が必要な池1か所、改修が必要な池2か所、経過観察が7か所、当面改修等必要なしが39か所。

問 ため池の改修計画は。また下流域での防災対策などを整備しているのか。

農林整備課長 平成17年にため池改修調査を行い、その判定や受益面積等を参照しながら改修計画を立て随時実施している。防災担当課と随時協議を行い市内全域のため池ハザードマップの作成やため池診断などの実施を行いたい。

問 いじめ・不登校の現状は。

学校教育課長 今年7月に調査し、小学校9件、中学校11件を認知した。8月末まで11件解消した。残る9件は、解決の見通しがつきつつある。引き続き解消に向け支援をしていく。学校側に危機感を持ち組織を上げ迅速に対応するよう指導している。

流れ出た土砂により田畑がなくなった川床

7月12日竹田水害について

後藤憲幸

問　今回の水害は竹田市内で大きな被害をもたらした。今後の復旧計画は。

建設課長　公共土木施設については、緊急性の高い所から順に行い、25年度中には終えたい。また、橋りょう等については期間を要す。

問　滝水川が氾濫し南河内、玉来方面に大きな被害をもたらした。玉来ダムにつぐ新たなダムを南河内に造り、家屋・土地への補償をして南河内を安全な所に移転。また、下流域の水害予防にもなるとの町内有識者等の声があるが如何か。

市長　復興の道を模索する方もいる。どういう方法が良いか今後の復興計画に取り上げる。地区に強い希望があることが大前提。地域の方と議論を重ねていく。

問　1千万円を超える農地災害は何件あるか。また、その負担が大きく申請を取りやめる方がいる。対策はないか。

農林整備課長　1千万円を超える災害か所は40数か所ある。負担軽減策を考え農家と話し合いを進めていく。

問　被害額が竹田管内で140億円とも言われている。市財政に対する影響は。

財政課長　災害補正3回合わせて74億円に及ぶ。秋に予定していた市単独の経済浮揚対策事業は災害復旧費に充てる。基金も取り崩して充てるので予算は大きく膨らみ、市財政に対する影響は大きな負担となる。

問　被災した市に交付税の前倒し支給がされたが、金額とその効果は。

財政課長　6億700万円が繰上げ交付された。財政運営上大変助かっている。

この他、荻簡易水道、農道の復旧計画、災害融資、防災計画について質問した。

自衛隊による行方不明者の捜索活動

農地・農業用施設災害について

渡辺克己

問　3か年以内で復旧を完了することになっているが、本年度の復旧目標とその体制について聞く。

農林整備課長　24年度70％の事業完了を考えている。体制については全庁的な体制で臨む。

問　山腹崩壊や河川水による土砂流入、表土流失農地については、全面積の植付けができない状況である。優先して復旧すべきでは。

農林整備課長　被災箇所が多いため査定前から選択して復旧計画を立てることは困難である。

問　施設災害は負担額の2分の1の市の単独補助がある。農地の資産価値が低下したこと、地域全体で農地を保全していこうとする方向性、施設災害との補助の均衡の観点から施設補助と同等とすべきではないか。

市長　農地は個人資産としての判断であるが必要な予算額も考え検討する。

問　国営大野川上流土地改良事業大蘇ダムの浸透抑制対策は、地元負担金を含め受け入れる考えと思うが、事業化率50％未満の末端の県営事業の推進はどうするのか。

農林整備課長　県と協議を行い事業の推進をしていく。

問　いまだ決定されていない維持管理体制はどうするのか。

農林整備課長　既存の維持管理検討委員会の中で話し合われる。

問　水田畑かん（ハウスの設置水田）と畑への給水施設設置の分担金の差についてどうなのか。

農林整備課長　畑かんの給水栓2万円は事業推進のため。水田畑かんはうね間かんがい計画が、給水管に変更したことから、工事費の5％相当額反当2・7万円の負担とするが、営農経費は安くなる。

問　個々の基盤投資を終え、更に先進的農業を目指す地域の振興は。

市長　大きな一般財源の投入がある。市民全体として農村経済を支える気持ちが大事である。

玉来川農地災害現場の空撮

河川改修のあり方について

佐田啓二

問 護岸ブロックの裏側が空洞になっているところが多数あり、そこから被害が拡大している。また、治水対策として遊水池を設けては。

建設課長 管理は県河川なので土木事務所に報告し対応を要請している。今後点検の強化についても要請したい。市民にも情報提供をお願いしたい。遊水池については、小規模河川においては条件次第では検討に値すると考える。

問 矢倉橋、土取橋、歳神橋、その他小河川の被害原因を調査して改修計画を検討すべきと考えるが。

建設課長 趣旨は理解できるので、玉来川本流の掘削などを含め、防災対策について土木事務所に相談する。

問 阿蔵新橋、玉来新橋の橋脚が阿蔵、拝田原、山手地区の被害を増幅させたのではないかと思うがこれをどのように捉えて今後、県と対策を協議していくのか。

建設課長 これから行う災害検証会議の中で阿蔵新橋については橋げたの撤去も含めて方針を出したい。玉来新橋についても県と協議をしていく。

問 災害検証会議の情報開示は。

市長 9月14日に立ち上げたい。できるだけ多くの方に参加頂き、情報開示をする中で、現場の声も聞かせて頂き内容の濃いものにしたい。

問 稲葉ダムをどのように評価しているか。

建設課長 常用洪水吐は自然調節型であり操作は一切行なっていない。今回幸いにも一番上の非常用洪水吐を越すまでならず、当初の治水機能を果たしたといえる。

その他、玉来ダム早期完成と滝水ダムの建設について、被災者への支援についてなどを質問した。

9月14日に発足した災害検証会議

7・12竹田災害について

渡辺龍太郎

問 12日午前0時25分に大雨洪水警報が発令された。竹田市は、午前6時15分に避難勧告を竹田市全域に、午前6時56分に避難指示を旧竹田市全域に出した。避難勧告や避難指示は、人的被害や災害の拡大防止のために必要があると認めたとき市町村長が発令するものだが、新聞報道では午前6時30分には竹田市文化会館前は海のような状況だったとある。竹田市全域に避難勧告、旧竹田市全域に避難指示の発令は、明らかに遅いのではないか。また、地域指定ができなかった要因は何か。

総務課長 竹田市としては避難勧告も避難指示も同等のものと捉えている。基本的に避難指示を出した時間には確かに文化会館・阿蔵地区の状況を見ると遅れているというような現象は確認できている。ただ情報では午前6時15分避難勧告を出した状況ではまだ避難は可能であった。避難勧告や避難指示を出すのは非常に難しいが、市としては最大限の処置をしたと捉えている。急傾斜地が多い竹田市では多くの危険箇所を抱えている。その中で県の土砂災害警戒情報を基に避難指示を旧竹田市全域に行った。

問 幾度となく災害を受けた竹田市として、今回の災害対応が本当に適切だったのか検証し、今後の竹田市の災害対応マニュアルやガイドラインを作っておかなければまた同じことを繰り返すことになる。今回の災害に対する竹田市の対応に対しての検証を行ってもらいたい。

玉来川の氾濫により壊滅的な被害を受けた山手地区

いじめ問題・南登山口「日本一のマラソン練習コース」整備について

井　英昭

問　竹田市内のいじめを把握しているか。過去3年間の傾向は。

学校教育課長　年間3回調査している。21年度は小学校9件、中学校15件。22年度は小学校10件、中学校20件。23年度は小学校7件、中学校21件の報告があった。

問　学校で過ごす時間の長い子どもたちは教員の人間性・指導力に大きく影響されるので、資質向上に努めてほしい。学校・教員の取組は。

学校教育課長　年3回外部から講師を招き研修を行なっている。子どもたちからのサインを見逃さず、いじめを許さない組織的な体制づくりを進めている。

問　廣瀬中佐の祖母　智満子の訓え8か条は現代に通じる道徳の基本を説いている。民間では再評価されているが、学校にもこの訓えを広めてはどうか。

教育長　この8か条は人としての道を説いているので、十分に参考にさせていただく。また、いじめをなくす一つの考えとして地域学を進めていく。

問　たくさんの大会や催しが「日本一のマラソン練習コース」で行われているが、年間の維持費はいくらかかっているか。

生涯学習課長　400万7千円。

問　平成20年9月に協力金箱を設置したが、これまでの集計は。

生涯学習課長　15万9927円。

問　コース内のトイレが非常に古く汚い。時代に合わないトイレの建て替え、改修は考えられないか。

久住支所長　久住高原クロスカントリー大会の終了間際に水不足となり、利用者に迷惑をかけた。築24年経過しているということもあり、補修・修繕を行うよう計画している。

久住にある「日本一のマラソン練習コース」

第65回大分県民体育大会が開催され竹田市議会も参加

日時：平成24年9月8日(土)～10日(月)　場所：佐伯市会場・津久見市会場

議員ソフトボール

監督　和田幸生

議員ソフトボールでは、一回戦別府市議会と対戦し15対2で勝利。二回戦は国東市議会である。

二回戦も練習の成果を発揮し11対4で勝ち進む。

準決勝では、会場を津久見市民球場へ移し、対戦相手は初出場の県議会。

試合の前半は、1回2回と順調な展開で得点を重ねたが、後半に逆転を許した。疲れが出て惜しくも敗れたが、昨年に続き三位に入賞である。

竹田市の元気をアピールできた。

議員ソフトボール　昨年に続き3位入賞

陸上競技

監督　坂梨宏之進

9月9日(日)佐伯市陸上競技場で陸上競技が行われた。

今年は天候不順で十分な練習ができず、本番はどうなるかと心配していたが、400メートルリレーでは堂々の三位入賞。監督の私も鼻高々の一日であった。選手の皆さんの健闘をたたえたい。

今年も頑張りました！！
100m走出場の井　英昭議員

400mリレーで3位入賞した陸上リレーチーム

視察研修報告

〈歴史・文化交流〉パートナーシップ宣言の町を訪ねて

社会文教常任委員会委員長 佐田啓二

10月2日～4日の間、歴史・文化交流パートナーシップ宣言を行った兵庫県朝来市、同養父市、大阪府茨木市を訪問した。

朝来市竹田城跡の登城者は平成17年度3万5千人、平成24年度は9月までの半年間で既に10万4千人に達している。

この要因の第一は、口コミとインターネットによる広がりである。「天空の城」、「日本のマチュピチュ」との異名が興味をそそるのだ。

第二に石垣の構図の変化がコンパクトにまとまっていて魅力が凝縮されている。

第三に四季折々の変化がある。特に10月中旬から12月にかけて霧に浮かぶ様はまさに「天空の城」、カメラマンの垂涎の的となり訪問者は後を絶たないという。

▶雲海に浮かぶ「天空の城」

▶兵庫県朝来市にある竹田城跡

市は、今年4月に職員4名体制の「竹田城課」を新設し竹田城の整備と活用を強化するとしている。

養父市では芸術によるまちおこしを学んだ。木彫フォークアートが盛んで、全国公募した作品展は19回目を迎えている。グランプリ作品は賞金100万円で、全国から多くの優秀な作品が寄せられ、町の活性化に貢献している。

茨木市では、初代岡藩主、中川秀成公の父中川清秀公の菩提寺である梅林寺を訪ねた。また、弾圧から逃れ山奥に隠れ住みながら信仰を続けた隠れキリシタンの里の「キリシタン遺物資料館」を訪ね、その歴史と文化財の保護・活用について学んだ。さらに、茨木市は福祉施策が進んでおり、地域福祉ネットワーク事業について研修した。

▲茨木市の市長、正副議長と竹田市社会文教常任委員会一行

あとがき

スイッチを押すと部屋の明かりがパッとつき、トイレの水は勢いよく流れる。栓を開けばガスに炎がつくといった当たり前の出来事が続く日常。それだけでとても嬉しくありがたいものですが、当たり前に慣れてしまうと、感謝や感動を忘れ、失ってからその存在の大きさに気がつくものです。健康な体、豊かな自然、毎日の仕事、良き仲間など私たちの周りは失えば困惑することが多くあります。改めて周囲を見渡し、日々感謝と感動の心を持ち続けたい。

市議会だより編集委員 森 哲秀

お知らせ

次の定例会は12月上旬開催予定です。

市議会ホームページ

本会議の会議録や議会の日程、質問項目、議会のしくみと役割など様々な情報を満載しています。

竹田市議会 で 検索

竹田市議会
http://www.city.taketa.oita.jp/gikai/

たけた 市議会だより No. 29 発行 平成24年11月1日 編集■市議会だより編集委員会 ☎0974-63-4813 印刷■えとう印刷